

月の花挽歌 ～5.裸のマハ～

5-15

横田の記憶の回路を惑わすように、

「ケセラセラ……、なるようになる！！、どん詰まりになった時の私の座右の銘なの。アルフレッド・ヒッチコック監督の映画『知りすぎていた男』の主題歌で、主演女優で歌手でもあるドリス・デイが誘拐された息子のために歌うのが『ケセラセラ』なの。この言葉の持つ力に何度救われたことか……」と真紀はおどけた顔で、続けざまに異なる仕様で映画音楽を二曲披露した。

真紀からケセラセラのフレーズを聞かされたことが引き金になり、横田は『日曜はダメよ』の曲調を思い出すことができたことで、

「二つの歌が僕の中では、どうやっても繋がらないよ」と不満げな顔で言った。

真紀にはそれ相応の道理があつたけれど、

「旅の途中で迷子にされた女の世迷い歌よ。でも、『日曜はダメよ』の五年前に『ケセラセラ』もアカデミー歌曲賞を受賞しているから、どこかで繋がらないかしら」と、今また女はエスプリを利かせたつもりで言って、微笑んだ。

男は内心、厄介な女と深入りしてしまったと狼狽したが、色相環で互いを引き立て合う補色関係より、反対色関係の色と色を対比させたほうが美しさで際立つのではないか、例えばヨハネス・フェルメールの『真珠の耳飾りの少女』の青と黄色のようにと、いかにも画家らしい理屈で気を晴らした。

色情がまったく失せてしまった二人は、シャワーを浴びると、横田が注意深く淹れた中深煎りのスマトラ・マンデリンのドリップコーヒーのカップをソーサーごと手に持ち、ベリー系やハーブの風味、スパイシーなフレーバーをゆっくりと味わいながら飲んだ。

「貴女の裸婦像を二点描こうと思っている」

横田は自分で決めた選択を、真紀の顔を正視しながら言った。

なぜ二点描くのか、横田の真意を汲み取れない真紀は、濡れたロングヘアをタオルに巻いた恰好で、コーヒーの苦味を味方につけて黙って話の続きを待っていた。

「何か？」と横田はくぐもった声で訊いた。

「二つの絵を描く理由を教えてください」

これくらいのことでは説明してくれて当然だと思いながら、真紀は語勢を強めて言った。

描きたいと逸る心の高ぶりが言葉足らずになって、相手に不信感を抱かせてしまっていると察知した横田は、今後は丁寧になりやすく対応していこうと自らを戒めた。